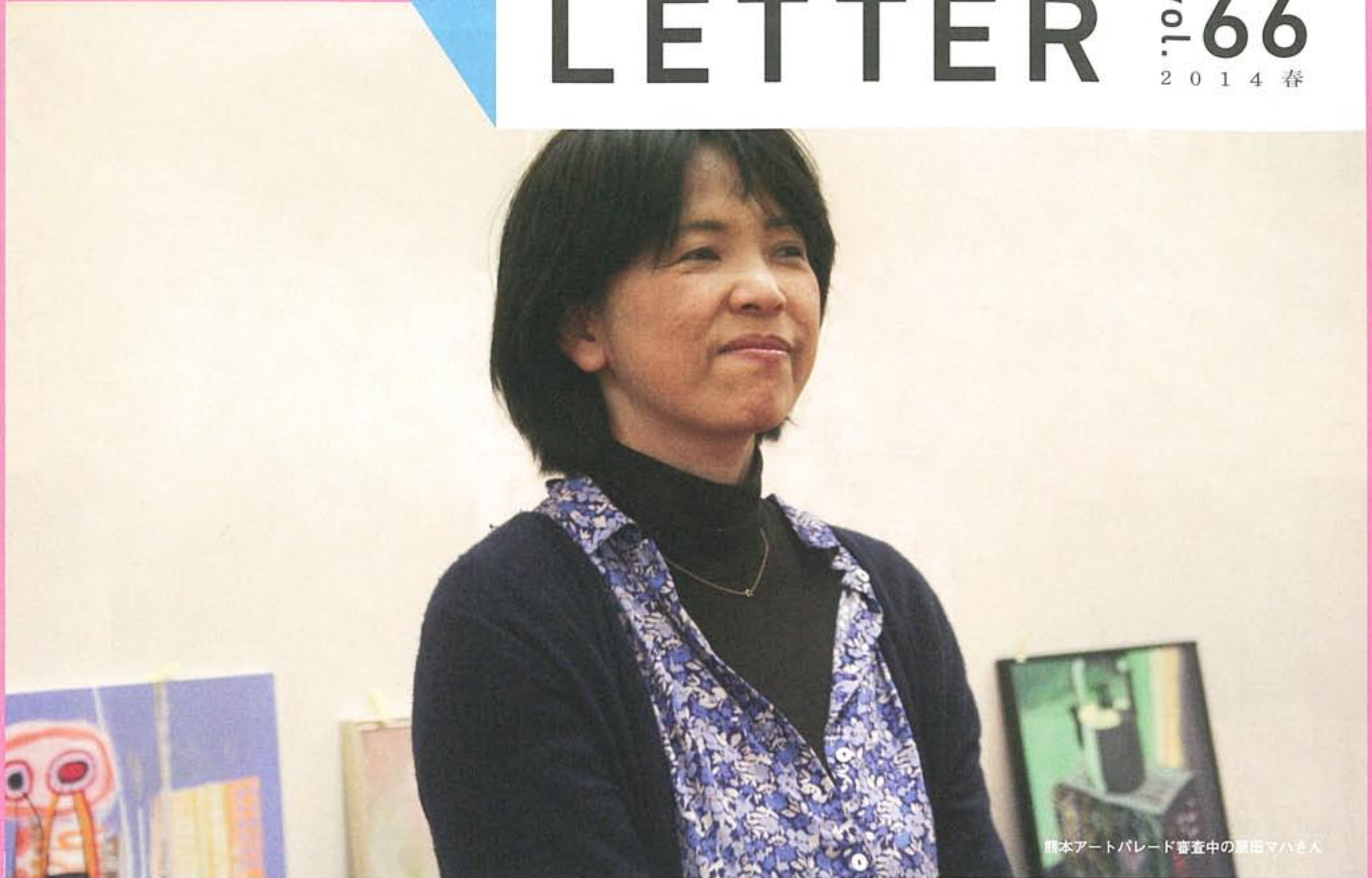


# ART KISS

## LETTER vol. 66

2014 春



熊本アートパレード審査中の栗田マハさん

### 巻頭言

## 「ミュージアム・サミット」と地域の美術館

2月8日と9日の2日間、神奈川県湘南国際村センターで「ミュージアム・サミット」が開催され、出席する機会を得た。2004年に始まったこのサミットは、隔年に開催され、本年で10年の節目となる。テーマは「ミュージアムが社会を変える——文化による新しいコミュニティ創り」。初日に基調講演を行ったのは、フランスの元文化大臣ジャック・ラングで、彼はパリのルーブル美術館を21世紀に輝く美術館に大改革した政治家である。猛反対に合いながら当時ルーブル内のかかりを占めていた大蔵省を立ち退かせ、駐車場となっていた中庭にI・M・ペイ設計の尖鋭なガラスのピラミッドを建設したのだ。莫大なお金がかかったにもかかわらず、それを実現したのは、大臣の情熱と実行力であり、また当時の大統領ミッテランの「この文化的な投資は、のちに数百倍となって戻ってくる」という確信であった。ここでは国家を担うもののビジョンと決意の重大さが語られたのである。

この「サミット」を冠する国際シンポジウムでは、その後イタリア、フランス、韓国等各国の文化政策の紹介と解説があり、東京、横浜、京都のケース、東北被災地の現状、さらに地方の活動報告があった。30分以内という短い時間ではあったが、私はシンポジウム最後のほうで、美術館と街なか商店街そして市民との関係性を軸とした、熊本市現代美術館の事例報告をすることができた。このように国家の文化的展望や施策から、首都圏の活動、そして地方の事例まで、事業規模の大小を超えて、美術館や博物館の今の状況が討議された。

2日間にわたる会議は、地域を語りながらそれが全体とつながり、将来を展望する有機的なシンポジウムであったことが特筆される。今回、サミットが行われた関東地方は異例の豪雪にみまわれたが、それにもかかわらず客席は埋まり、議論は緊密で充実したものとなった。

熊本市現代美術館館長 桜井武

# MUSEUM INFORMATION

2013 DEC - 2014 FEB

## ミュージック・ウエーブ

展示会や季節にあわせた  
コンサートを開催しています

### 「CAMKクリスマス コンサート」

ミュージックウエーブ76

2013.12.23



熊本在住のシンガー・ソング・ライター、緒方真子さんと、福岡を中心に活動されているアコーディオンとギターのインストユニット「キネマチコル」の2本立てのコンサートを行いました。絵を描くことも好きだと話す緒方さんは、自作の絵を会場に飾って演奏して下さいました。西洋音楽のバック・ボー

ンであるヨーロッパを訪れた際に感銘を受けて制作したという楽曲は、透明感のある歌声とやわらかなギターの音色がとて素敵でした。「パリの空の下」など、シャンソンの曲を中心に披露されたキネマチコルさんは、開催中の「アール・ブリュット・ジャポネ」展も観覧されていて、展示されている作品のように元気な曲を演奏します、とトークを交えて情熱的に演奏されました。

【参加人数70人】

## CAMK新春福引

2014.1.4



今年で第3回目となる、CAMK仕事始めの大イベント「新春福引」を開催しました。当館の新春福引は、参加費無料で、おひとり1回限り、空くじなしです。

入り口横の特設コーナーにて、くじを引いていただき、「アタリ」が出たら、当館カタログや、美術館グッズなどを選んでいただけます。特賞はもちろん開催中の展示会招待券です。

賞品は、「アール・ブリュット・ジャポネ」展示会招待券をはじめ、近年の展示会カタログ、熊本市特製グッズ、シャボン玉を作るおもちゃ、各種シールなど、くじ賞品総数950点！バラエティに富んだものとなりました。

来館者数942名のうち、579名にご参加いただき、今年も年初めより大盛況！多くの美術館ファンの方々と美術館職員が楽しく交流する場となりました。(H・T)

【参加人数579人】

## 月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料

### 上映リスト (12/23 ~ 2/10)

- 12月23日「サンタクロースになった少年」2007年 フィンランド映画 80分
- 1月6日「キートンの蒸気船」1928年 アメリカ映画 69分
- 1月13日「ハーヴェイ・ミルク」1987年 アメリカ映画 87分
- 1月20日「裸足のギボン」2006年 韓国作品 100分
- 1月27日「ハーブ&ドロシー」2008年 アメリカ映画 87分
- 2月3日「木洩れ日の家で」2007年 ポーランド映画 104分
- 2月10日「おじいさんと草原の小学校」2010年 イギリス映画 103分

## ホームギャラリーからのお便り

ホームギャラリーから  
おすすめの一冊をご紹介します。

VOL.19

### 「書教育の理想」



著者：杉岡華郎  
出版：株式会社二玄社  
1996年

「育」の視点から考え、「書」から何を学べるのか、その重要性とは何かを教えてくださいます。

小中学校まで国語の一環として教育されてきた「書写」。高等学校から芸術として教育されている「書道」。やっていることは同じ。字を書く。ことですが、子ども達が成長していく中で徐々に芽生える自由性や、自分の個性を前に出そうとする意識、そういった子ども達の成長過程に応じた教育が、現代の書教育の中に多く組み込まれているということも感じることができます。

本書では、小学校一年生から一学年ごとに設定されている学年目標や指導内容、更には、字の基本的な書き方まで紹介されています。大人になってから「字」って大事だなとか、「子どもの時に習っておけばよかったな」って思う時、ぜひこの一冊を読んでみてください。

そして、毎日、無意識で書いている「字」、そんな自分の「字」を、この本を読んだあとに一度見つめ直してみてください。きっと、あなた独自の個性が見えてくるはずですよ。(N・O)

みなさんは、自分の書いた「字」好きですか？人の書いた「字」をどう思いますか？

「字」には、「点」「線」「色」など、人それぞれ自由性があり、個性があります。

今までの学校教育で行われてきた「書写」「書道」で大切にされてきたのは、人の個性なのか。それともお手本どおりの綺麗な字なのか。本書の中では、今までの教育の現場で重要視されてきたものについて「書教

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の  
自作の詩の朗読会です

テーマ「自由題」



10周年記念  
例会となった第  
121回の詩  
の朗読会。テ  
ーマは自由題で  
した。飛び入り参  
加を含む16名の  
方が発表されま  
した。

自由題という  
こともあり、ま  
た、2013年

2013.12.26

テーマ「大切なもの、  
大切なこと」

最後の朗読会ということもあり、いつものようにテーマに沿ったものとは違った、その人の特徴がよく現れているものがありました。

今年を振り返り、来年は、干支の午のように駆け抜けたいと抱負を述べられる方、自身で描かれている絵に対して作った詩、創世記についての独特な表現の詩など。今回も一節一節にぐっと引き込まれる詩を発表してくださいました。(N・H)

【参加人数16人】

第122回のテーマは、「大切なもの、大切なこと」。

飛び入りで1名参加され、16名での発表となりました。発表者がそれぞれ、大切にしているモノやコトには、命

2014.1.30



「ありがとう」の言葉の大切さ、花や手紙に例えられた大切な人へのメッセージ。そこに記憶された想いがたくさん伝わってくる会となりました。(N・Hi)

【参加人数16人】

や人、伝える言葉や想う気持ちまでさまざまでした。一つ一つは違った内容でも、私たちが生きていくという証になるものが、作品の根底に刻まれているように感じました。母から言われた

CAMKEESの活動

美術館ボランティア

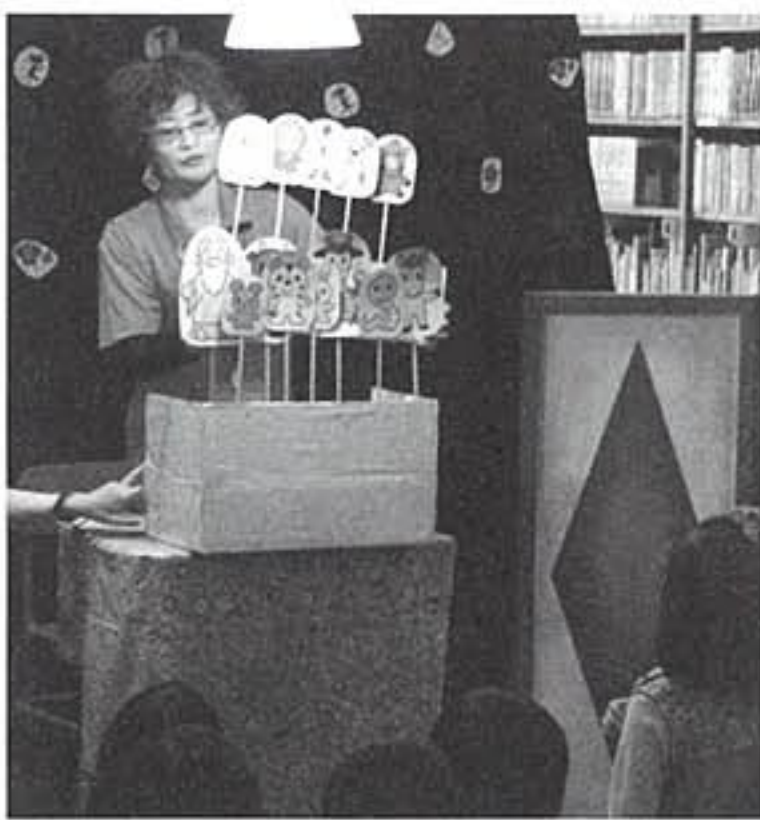
CAMKEES(キャンキース)による活動紹介

CAMK「読みがたり」第53回

テーマ「にっぽんの行事」

1月の読みがたりは、紙芝居「おひさまあけましておめでとう」や絵本「だるまさま

2014.1.18



んが、「おもちゃのきもち」など、「にっぽんの行事」をテーマにお送りしました。十二支の順番はどうやって決まったのかが分かる、ペープサート「12支のはなし」は、ひとつひとつの干支が紙人形で作られており、物語の最後に可愛らしい十二支がズラリと並び、たくさんの子どもたちが興味深そうに鑑賞していました。(Y・M)

【参加人数34人】

CAMK「読みがたり」第54回  
テーマ「外国のおはなし」



2014.2.15

寒い冬の晴れ間に、ほっこり暖かなお話がたくさん登場しました。絵本「だっここのえほん」は、色々な動物がお母さんとだっこしている様子が描かれていて、優しい気持ちになりました。手遊び「ゆきゆきふーれ」では、指1本で、ちらちら、降る雪を、2本でキツネさんのような、ごんごん、雪を、5本全部で、ずんずん、と積もった雪を表現しました。手遊びをしながら、本当に雪が降り積もっていくようで、子どもも大人も寒さを忘れて楽しく参加していました。(N・Hi)

【参加人数26人】

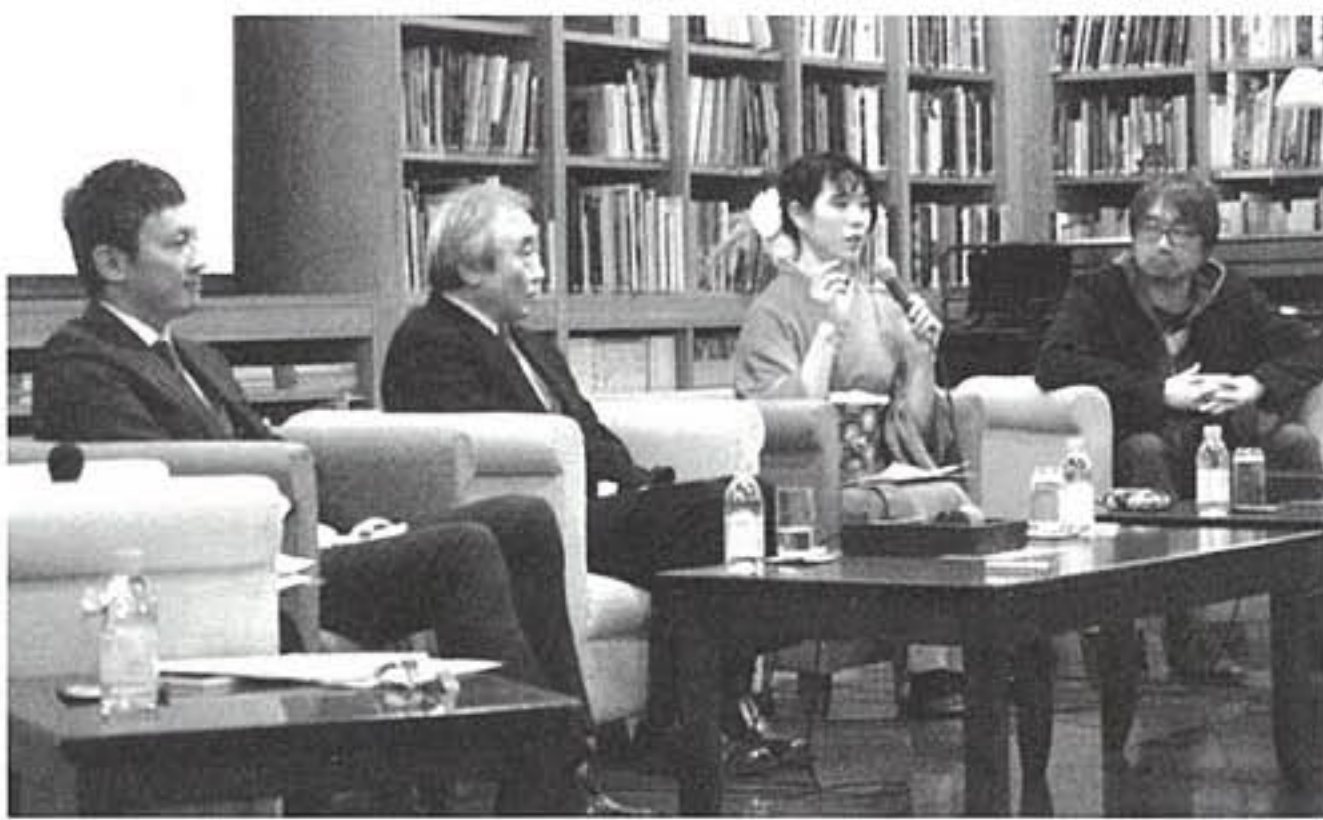
feshigoto「イブニングトーク」

2014.1.22

熊本県が提案している「くまもと手仕事ごよみ」推進事業の、ホームページ「くまもと手しごと研究所」開設を記念し、イブニングトークが熊本県主催、当館共催で開催されました。

パネリストに、小山薫堂さん(放送作家)、大津愛梨さん(農業)、小野泰輔熊本県副知事、桜井武当館館長の4名を迎えて、「くまもとライフ」日本「旬」に敏感なくまもとをテーマにトークが行われました。それぞれの視点から、二十四節気の暦を意識して生活をしていくことは、熊本の伝統行事や食べ物、自然を大切にしていくなことにつながるなどが語られ、会場も大いに盛り上がりしました。(N・H)

【参加人数120人】



「アール・ブリュット・ジャポネ」展  
**プレママ&  
 ファミリーツアー**

2014.1.11



「アール・ブリュット・ジャポネ」展のプレママ&ファミリーツアーを行いました。今回の展示は、鉛筆やクレヨンのような身近な素材が使われていたり、子どもたちが大好きな電車や自動車、飛行機がモチーフの作品があったりと、親しみやすい内容でした。お気に入りの電車の前にかじりついて、動かなくなる子も…。自分たちの目線で面白さを発見しやすく、親子の会話もとてもはずんでいたようです。見終わる頃には、みんな「見終わったぞ!」とお腹一杯の達成感を味わいました!  
 (A・S)

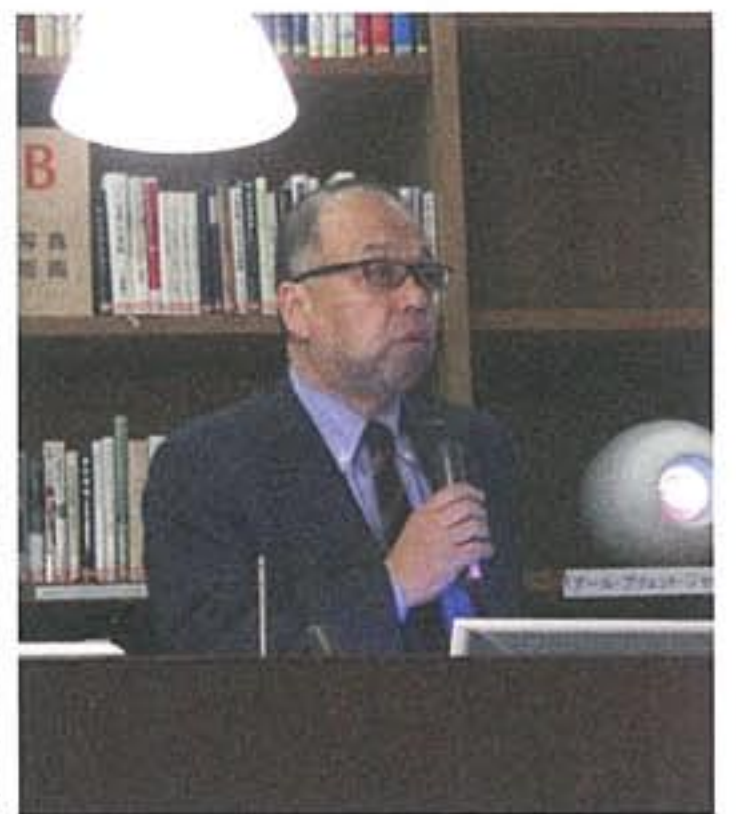
【参加人数12人】

「アール・ブリュット・ジャポネ」展  
**連続講演会 北岡賢剛氏**

2014.1.13

社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団理事長の北岡賢剛さんによる講演会が行われました。

始めに、滋賀県近江八幡市にある「ボールドレスアートミュージアムNO-MA」の紹介を通して、日本の障害者の造形活動の歴



史についての説明や、滋賀県社会福祉事業団とスイス・ローザンヌ市やフランス・パリの美術館との交流事業より日本のアール・ブリュット作品が海外のメディアから高い評価を受けたこと、また、「アール・ブリュット・ジャポネ」展を開催するにあたっての苦労などお話しいただきました。  
 会場には県外からの来場者も多く、みなさん熱心に耳を傾けていらっしゃいました。  
 (K・O)

【参加人数70人】

「アール・ブリュット・ジャポネ」展  
**連続講演会 今中博之氏**

2014.1.19

連続講演会二人目の講演者は、社会福祉法人素王会理事長/アトリエインカープクリエティブ・ディレクターの今中博之さん



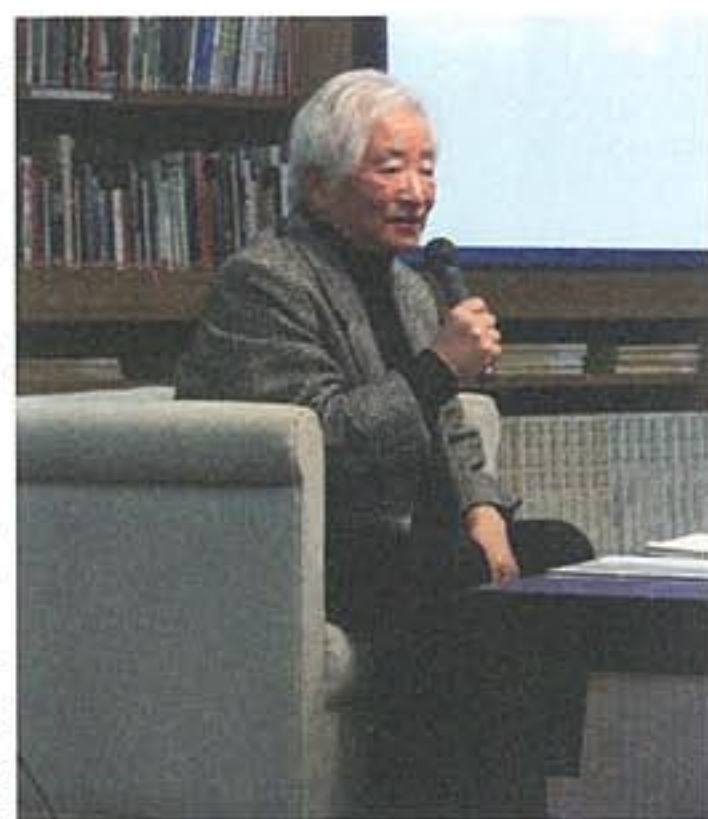
「アトリエインカープ的、アール・ブリュットの解釈」というタイトルで、インカープのアーティストのアウトプットの仕方、その課題から、アール・ブリュットの定義と現在における乖離について、ご自身の経験も交えながらお話しいただきました。

「霧の晴れるようなお話でした」「現状おかれた所で、心と頭を柔らかくしながら進みたいと感じました」(アンケートより)などの感想が寄せられました。遠くは東京、愛知からのお客さまも!当館が、今中さんのお話にもあった「観点変更」の場になったのならうれしい限りです。  
 (E・Z)

【参加人数75人】

「アール・ブリュット・ジャポネ」展  
**連続講演会 播磨靖夫氏**

2014.1.26



「アール・ブリュット・ジャポネ」展連続講演会、最後となる今回は、財団法人たんぼの家の理事長の播磨靖夫さんに「アート・障害・その未来」と題してスライドや映像を交えお話しいただきました。

障害者の創造性を開発し、企業と関係性を作り出すことで、有効に活用されていなかった労働力にチャンスを与えるなど興味深い内容でした。

3回に渡っての連続講演会は様々な立場

からお話を聴くことができ、当館にとっても貴重な機会となりました。  
 (K・O)

【参加人数65人】

「アール・ブリュット・ジャポネ」展  
**ナイトツアー**

2014.1.30&21

「アール・ブリュット・ジャポネ」展ナイトツアーが2日に分けて開催されました。作品数が多く、平面や立体などバラエティに富んでいるので、みなさんそれぞれに時間をかけて鑑賞されていました。近隣の商店街の方々を招いてのナイトツアーも恒例化してきて、次の展覧会も楽しみにしています!というお声も。美術館を身近に感じてもらえると嬉しいです。  
 (E・Z)

【参加人数合計31人】



「アール・ブリュット・ジャポネ」展はカラフルでにぎやかな会場でした!



「アール・ブリュット・ジャポネ」展  
「こどものてつがく美術館」  
ワークショップ

2014.1.18



「アール・ブリュット・ジャポネ」展関連企画として、「こどものてつがく美術館」ワークショップを開催しました。この「てつがく美術館」は、子どもたちが対話をしながら作品鑑賞や制作を行い、それを通して考えること・表現することを深めていくワークショップです。

前半の「てつがくの時間」では、展覧会

の作品を観ながら、「これは何を描いているの?何に見える?」「タイトルをつけるとしたら?」といった講師の高橋綾さんが投げかける問いに対して、子どもたちは「タコみたい」「目が光ってるよ」「ネコにみえる。」「ふくろうが二匹?」「宇宙人!」と、ときに活発に、ときにはうーん…と考えるみながら答えていました。

後半の「つくる時間」では前半で鑑賞したものをもとに、アーティストの光島貴之さんとともに自分たちで作品を作りました。目の見えない光島さんといっしょに作るのは、「触って楽しい」作品。さつき観たあの絵は、触感でいうとどんなかんじだったか?つるつる?さらさら?ひやつる??みんなで意見を出し合いながら触感について考えました。その後、豊富な素材の中からイメージに合うものを選び、平面から立体まで様々な表現の「触る作品」が制作されました。子どもたちは夢中になって手を動かし、時間が来てもまだまだ作りたらない様子でした。(G・S)

【参加人数10人】

障がい者サポーター  
研修会 Vol.2

2014.2.11



熊本市障がい保健福祉課の委託事業として当館が行っている、障がい者サポーター制度の2回目の研修会が開催されました。今回は熊本県聴覚障害者情報提供センター所長小野康二さんをお招きして、

聴覚障がいについてお話いただきました。きこえない・きこえにくいとはどんな状態なのか、実際にいろんなレベルの音を聞いたとき、音を視覚化する以外のサポートの仕方として、きこえの環境をよくするのが重要といったお話に、大きくうなずく人が多く見られました。「障がい」の定義を考え直す機会になった講演会となりました。(E・Z)

【参加人数75人】

G III

ギャラリーIII(G III)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

「開かれゆく境界」展  
ギャラリートーク

2013.12.21

「開かれゆく境界」展のギャラリートークを開催しました。クリスマス間近ということで、担当学芸員もサンタスタイルで解説案内を行いました。コンセプトで一見難解そうな作品もある中、みなさん熱心に耳を傾けていました。華道家の辻綾子さ



んが制作された貝の作品を紹介した際には、「華道家!なるほどすごくわかる気がします!」と、深くうなずきながら作品に見入っているお客様もいらっしゃいました。(G・S)

【参加人数5人】

熊本市中学校造形展

2014.2.8-23

熊本市の中学校の美術の時間やクラブ活動などで制作された美術作品の優秀作が並び、造形展が開催されました。本年の参加校は40校。デザインや水彩、篆刻、模写、木彫などバリエーションあふれる制作内容で、出品した生徒の保護者だけでなく、多くの方が中学時代の美術の時間を懐かしんだりしながらご覧になっていました。(A・S)



# ART DE GYAN

アート・どぎゃん。

\*熊本弁でアートはどぎゃん？という意味です

## 第15回書芸「風」展

アトスペース大宝堂

熊本市中央区上通5・6

TEL 096・354・2155

2014.2.5-10



日展会友の書家丸山三千代さんが主宰する書である。女性のみの28名で88点の書作品を展示した。丸山さんは「月影清」とダイナミックに大書し、「桜花

幽玄」は二曲屏風にモダンにまとめた。萩野厚子さんの「春のおとずれ」の詩文の大作の軸。大久保郁子さんの淡墨による「夢花」の近代詩文書が印象に残った。書体や題材ともに自由で、自分なりの発想で、伸びやかに書かれた作品が見られ、春らしい明るい会場となっていた。扇子による共同制作や、和紙のモビールもあり、軸や額、パネルと表装も作品にあわせて工夫されていた。(S・K)

## たかはしちえ 「うつらかな日」II

2014.1.21-26

熊本県伝統工芸館2階展示室B  
熊本市中央区千葉町3・35  
TEL 096・324・49900

熊本市の陶芸教室の講師で陶芸作家のたかはしちえさんの個展「うつらかな日」が開催された。白をベースとした器に青の繊細な線で描かれた模様が花びらや植物を連想させ、可愛らしさと優しい雰囲気を感じた。このメインとなる模様は、魚の鱗を描いており、たかはしさん曰く「いろくず(鱗)モチーフ」と呼んでいるそうだ。今回の展示では、大皿や手のひらほどの大きさの花器をはじめ、水たまりをイメージしたオブジェなど約200点が展示されていた。また、用途が特に決められていないという一輪挿しのような形の「あのこ」という作品も印象的に見入ってしまった。(Y・M)



## Café des photo club 写真展III

2014.2.6-10

お菓子の香梅帯山店ドゥ・アート・スペース  
熊本市中央区帯山7・6・84  
TEL 096・381・86801

サンライフ熊本デジカメ写真教室のメンバーによる3回目となる写真展。講師の小山さんが、「技術的なことにとらわれないで写真撮ることをもっと楽しんでほしいので、写真展以外の展示会などを観にくくように勧めているんですよ」と語るように、絵手紙ならぬ「写真紙」やデジカメで撮影した写真を花に見立てて展示する「生け写」など、通常の写真展ではあまり見られないアイデアあふれる展示空間になっていて、既成概念にとらわれない自由な発想を写真教室のみんなが楽しんでいるのが伺えた。「なにを見ても被写体になるので毎日が楽しいです」という写真教室のメンバーの声による可能性を強く感じさせられた展示会だった。(E・Z)



## 編集後記

この1-3月は印刷物発行準備に勤しむ日々でした。次年度の展示会スケジュールリーフレットを作り、G3で開催中の秀島由己男展のチラシとカタログを作り、AKLを作り、疲れて夜にとぼとぼと帰る道の途中、梅の花と沈丁花の香が混じり早春の夜の雨のなかしつとりと香っていました。ふと顔を上げたその先、街灯にけぶる雨が光る様子をながめ、当館自慢の草間彌生作品「早春の雨」をしみじみと思い出しました。

アートパレード出品作品も、シルバークラウド出品作品も、冬を越えて春に花が一生懸命に咲いているような作品が揃っております。いよいよ春ですね！

編集長 富澤治子

今年も「熊本アートパレード」にたくさん作品が集まりました。テーマ「光」にそった作品が揃い、会場も華やかです。「熊本アートパレード」は美術団体「コラボレーター」の方々にご協力いただいで開催しています。みなさんと一緒に作品受付をするのが一年に一度の楽しみでもあります。美術の話や、出品作品の話をして、世代を超えてお話できることがとても嬉しく、勉強になることばかりです。そして、一年はあつという間だなと作品受付をしていてつくづく感じます。

担当 濱川倫子

## Visitor's letter

来館者のみなさんからのメッセージ

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

### 「アール・ブリュット・ジャポネ」展

- ・足を止め見入る作品が多く、又初めてお目にかかるものもあり、とても感動しました。すごく細やかな作品があり、作者の繊細さをうかがえる手応え抜群の展示会でした。(熊本県・50代・男性)
- ・想像を上回る面白さでした。作者の発想に驚かされました。(兵庫県・40代・女性)
- ・94才の老婆に大いなる興奮と啓発を与えていただきました。感謝。(熊本市・90代・女性)

【執筆後記】\*原稿の文末にイシヤル表記

兼城昌山(書道家)(S・K)

藏座江美(熊本市現代美術館主任学芸員)(E・Z)

富澤治子(熊本市現代美術館主任学芸員)(H・T)

坂本顕子(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・S)

芦田彩葵(熊本市現代美術館主任学芸員)(A・A)

佐々木玄太郎(熊本市現代美術館学芸員)(G・S)

濱川倫子(熊本市現代美術館学芸員)(N・H)

丸吉ゆかり(熊本市現代美術館学芸員)(Y・M)

平原奈津美(熊本市現代美術館学芸員)(N・H)

大田黒翔代(熊本市現代美術館学芸員)(K・O)

岡田直幸(熊本市現代美術館総務主事)(N・O)

ART KISS LETTER アートキッスレター

Vol.66春号(2014年3月)【無料】

発行人: 桜井武

編集: 富澤治子 濱川倫子

デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI)

印刷: シモダ印刷

発行: 熊本市現代美術館

860・0845

熊本市中央区上通町2・3

電話 096・278・7500

ファクス 096・359・7892

http://www.camk.or.jp/

【次号は初夏号(5月末発行予定)】

# KUMAMOTO ART PARADE

## 奨励賞

《新水前寺駅にJRと市電がドッキングして大きく光がさした。よみがえった新水前寺駅》は、マチエール、筆致がすごく好きです。一見すると単純な色遣いのように見えますが、けっこう計算して色を配置していますね。俯瞰の構図も巧い。

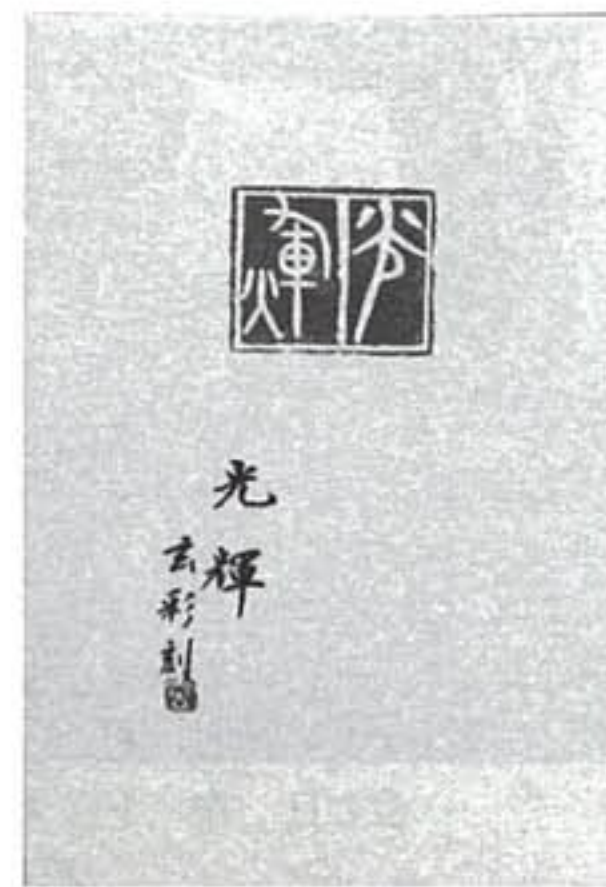
《光輝》は、すごくバランスがいいですね。技術に一票です。美しくバランスをとった字の配置にも感心させられます。

《輝く》は、字のゆらめきが光を表していて素敵だと思いました。背景にうっすらと墨で虹を引いているのもいいですね。書であるにもかかわらず、光のリフレクションが作品によく表れているなと思いました。

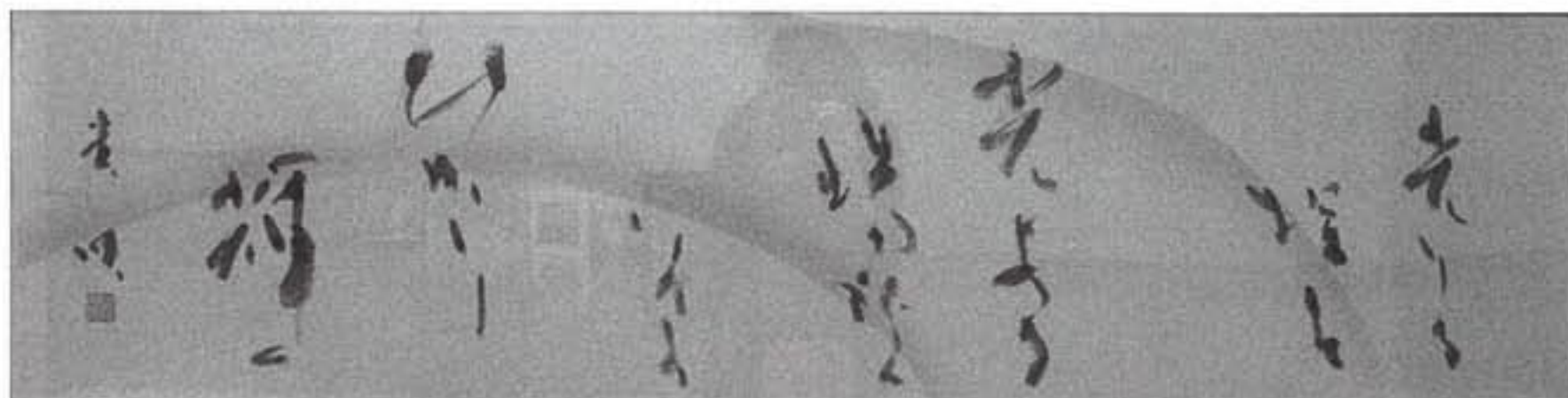
《光を纏う》は、技術賞ですね。インパクトも強いし、バランスもいい。オブジェとしてはもちろんだけれども、モードとして見ても、とてもいい。着てみたいと思いました。離れて見ても、光がキラキラして見えて、美しい。



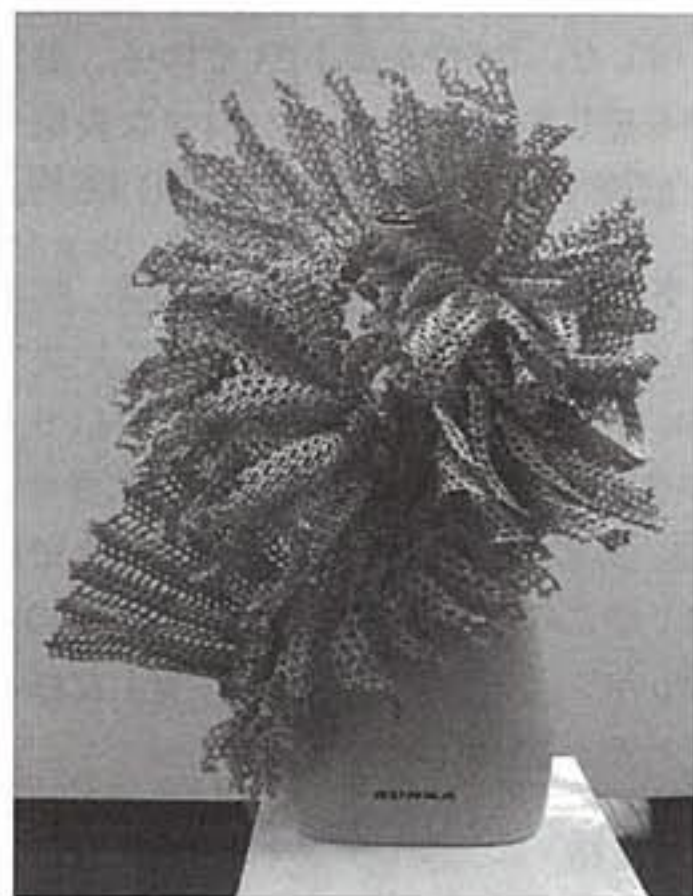
新水前寺駅に JR と市電がドッキングして大きく光がさした。  
よみがえった新水前寺駅  
作/祐下登志子  
[部門/洋画]



光輝 作/高木猛(玄彩)  
[部門/書]



輝く 作/野田希美子  
[部門/書]



光を纏う 作/本村優佳  
[部門/立体]

## コラボレーターの会 特別賞

《あに、おとうと》  
兄弟の愛らしい姿を捉えた作品だと思いました。兄弟がぎゅっと手をつなぎ、弟が兄を見上げる姿には仲の良さがよく表れており、そこにはほんわかとした空気が漂う暖かい光を感じました。

\*本作品は、コラボレーターの会の皆さんが選ばれました。



あに、おとうと 作/高松富子  
[部門/洋画]



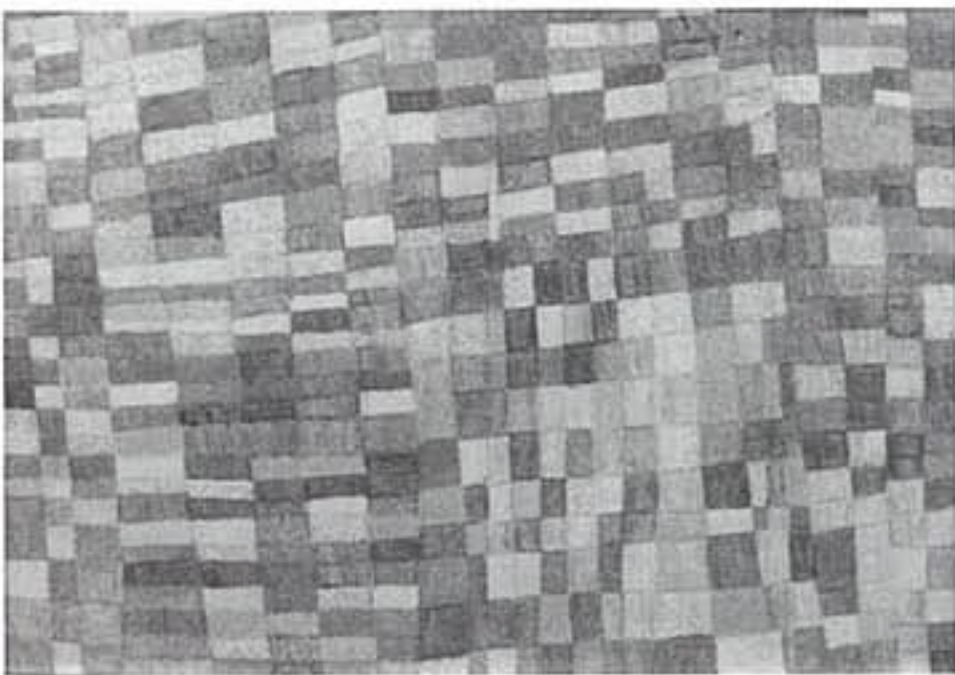
# KUMAMOTO ART PARADE



夏の日 作/下條久美子  
[部門/洋画]



憩いの時間 作/前田よし子  
[部門/洋画]



太陽 作/本田美奈子  
[部門/その他]



不開門 作/前田積男  
[部門/洋画]

## 奨励賞

《夏の日》は、夏の一瞬の儂い光をよく捉えていますね。一瞬の輝きを閉じ込めたような作品で、時間軸が巧く表された作品だと思います。続いて行く小路や中央の花の配置など、構図の取り方もいいですね。

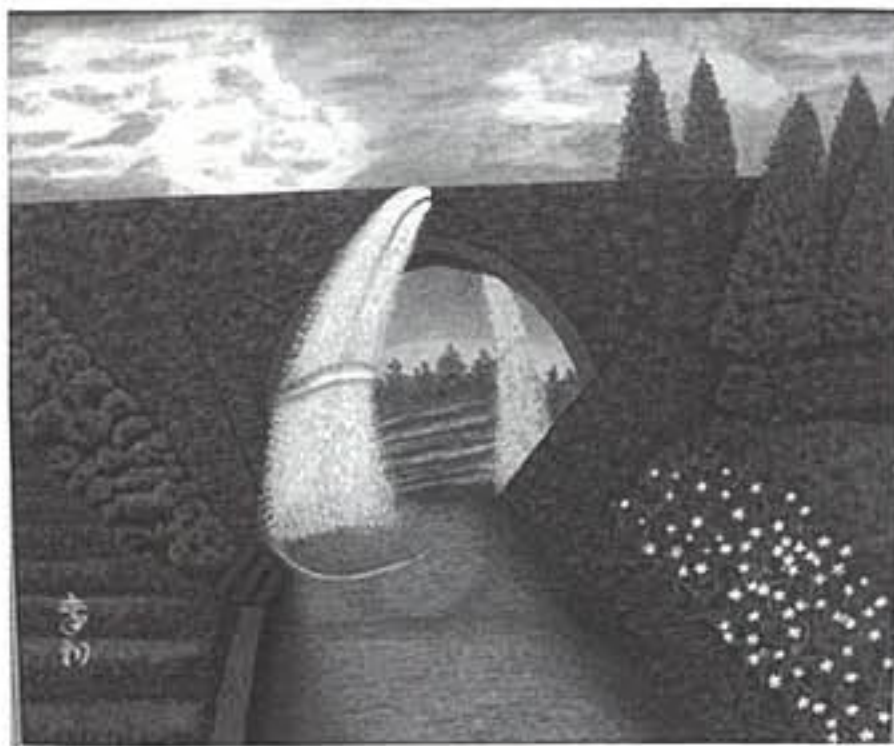
《憩いの時間》は、愛らしい作品ですね。このゆがみの表現は、セザンヌを想起させます。100年以上経った現代でも、洋画作品の多くに、今なおセザンヌが色濃く受け継がれているなど感じます。デコラティブなクロスカバーはマティスを思い起こさせます。またピカピカしたものに映り込む光もいい。それも決して大げさなものをモチーフにしていなくて、さり気なさ。キッチンに飾りたいですね。

《太陽》は、タイトルがとてもいい。このタイトルが、このアブストラクな表現と結びついて、物語を生み出している。本の表紙にも素敵ですね。

《不開門》は、遠くに桜があって、そこに光が当たっているのがいいですね。全体的に構図がゆがんでいるのも面白いと思いました。ささやかな小さい門から、奥行きを感じさせるパースペクティブな表現へと展開する、いい描き方だと感じました。

《水と遊ぶ光(通潤橋の放水)》は、歴史ある通潤橋の立派な感じが出ていますね。さりげなく虹が描かれているのもいい。フラットに見えて、実は奥行きを感じさせる絵。あえて、人間や動物を描き込んでいないところも潔く感じます。水と虹のリフレクションも、テーマである「光」にぴったり重なると思いました。

《月光椿》は、少しデフォルメされた日本画の系譜になるかと思いますが、屋根と黒塀の黒が深みを与えて、闇を作ることによって光を際立たせている。本当ならもっと暗いと思うのですが、月の光に應えるかのように輝く椿が非常に詩的で美しいですね。



水と遊ぶ光(通潤橋の放水) 作/田口幸利  
[部門/日本画]



月光椿 作/今藤博行  
[部門/日本画]



熊本アートパレード  
裏表紙からの原田マハさんの  
講評の続きだよ。





# KUMAMOTO ART PARADE

## 優 秀 賞

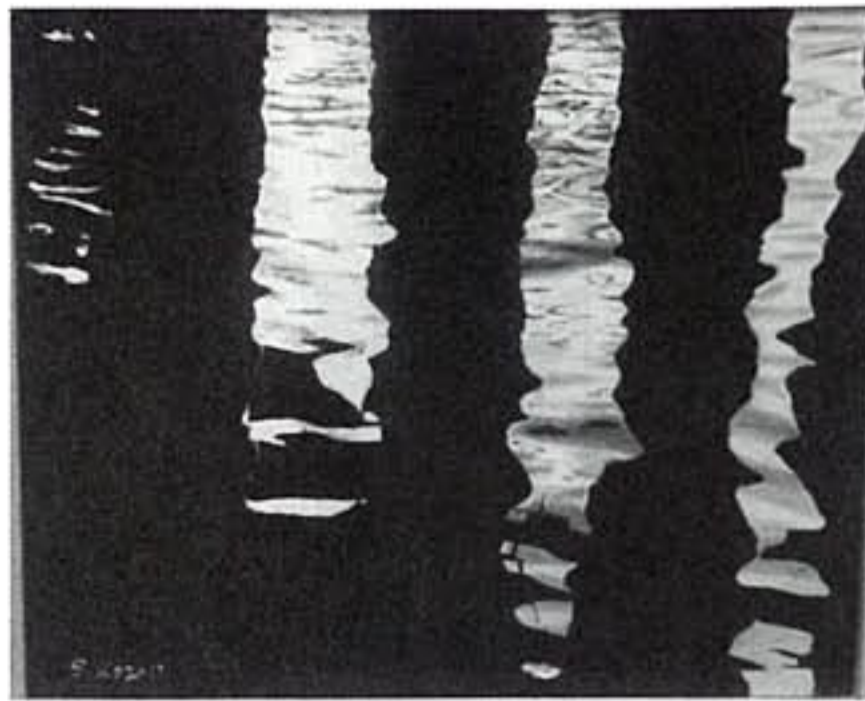
《水面》は影側から光を捉えた作品ですね。光がアブストラクトに表れていて、いいなと思いました。ストレートに闇と光のコントラストが表現されていて美しい。

《Overflow》は都会の暗渠を写した作品ですね。影を際立たせることによって、光を捉える逆転の手法を用いた作品のなかでは、光を最もよく表しているものだと感じました。小沢昭一さんの写真を思い出しました。

《80歳の幸福》は、私が好きなアンリ・ルソーを思わせる素朴さがとても素敵ですね。また、構図についても屋根がない、家の内部を俯瞰しているところが面白く、中世のジョットのスクロヴェーニ礼拝堂を思い起こさせます。庭にはお花があって、光が満ち溢れている。こういう生活が一番いいですね。

《穏しき光の中で (小さなどんどや)》は、農村の日常風景がよく表れています。都会では今は見ることができない、失われた日本の風景ですね。この作品はよく見ると、緑の小さな芽吹きや、遠くの屋根瓦などがよく描きこまれていて、技巧的にも巧いなと思います。

《陽光》は、微妙な奥行きがセザンヌを思わせます。玄関に飾りたくなる作品ですね。暖かい日差しが溢れて、ふわっとこの世界全体を照らしているような光がいいなと思いました。



水面 作/小崎春一  
[部門/洋画]



Overflow 作/本田真介  
[部門/写真]



80歳の幸福 作/一村謙三  
[部門/洋画]



穏しき光の中で (小さなどんどや)  
作/池田照子  
[部門/洋画]



陽光 作/松元スミカ  
[部門/洋画]

ごあいさつ

熊本市長

幸山 政史



「熊本市民美術展 熊本アートパレード」は、市民の皆様と共に創り、共に楽しむ「手作りの美術展」として、今回で第25回目を迎えます。平成元年の第1回開催から今回まで、合計10324点の出品をいただいております。開催20年以上に亘る本展への温かい皆様のご支援に、心から感謝申し上げます。

今回は、「光」というテーマの下に、芸術を愛する幅広い年齢層の皆様から339点もの力作をご応募いただき、作品に込められた作者の思いが直に伝わってくる展覧会となっております。ご来場の皆様には、市民美術の競演をごゆっくりとお楽しみいただきたいと存じます。

さて、本市は、暮らしやすく、魅力的で、多くの人々を惹き付けることのできる、持続可能なまちづくりを進めております。芸術文化の持つ創造性は、今後のまちづくりにおいてますます重要な役割を果たすものと存じますので、皆様の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本展の開催にあたり、出品された皆様、審査員の原田マハ様、企画・運営にご協力いただきました「コラボレーター」の会」及び「熊本市老人クラブ連合会」をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本展を通して市民の皆様との文化芸術活動がますます輝きを増し、相互の交流が一層深まりますことを心から祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

## KUMAMOTO ART PARADE

第25回熊本市市民美術展

## 熊本アートパレード

会期：平成26年3月8日(土)～23日(日)

主催：熊本市、熊本市現代美術館(公益

財団法人熊本市美術文化振興財団)

協力：コラボレーターの会

審査員  
原田マハ

今回のテーマは迷わず「光」にしました。私自身も創作のなかでこの5年間、「光」についてずっと考えてきました。「光」とは、具体的でもあり抽象的でもある言葉ですが、この世に満ち溢れる光を、アーティストの皆さんが拾って、表現方法のなかに取り込んだ時に、どのような化学反応を起こしてアートワークとなつて表れるのか、どのようにこのテーマを返してくれるのかを楽しみにしていました。

テーマ：光

総出品数  
339点

## 熊本市現代美術館賞



BABY 作/BRAKICHI

[部門/洋画]

熊本市現代美術館賞の《BABY》は、現代的表現で個性のある作品だと思いました。タイトルが大変いいですね。これから生まれてくる子供が光となっていくという、抽象的なテーマとの絡め方も巧いと思いました。

## 審査員特別賞(原田マハ賞)



冬の終り 作/坂本州栄

[部門/洋画]

原田マハ賞の《冬の終り》は、とても好きな作品です。色遣いといい、マチスを想起させます。暖かい光が表れていて、ストーブとやかんというモチーフもさりげなくていいですね。やかんの取手が切れている構図も面白い。自分の部屋に飾りたい作品ですね。

## 講評/原田マハ

アートパレード大賞の《光の中で》は、見た瞬間、最も惹きつけられた作品です。技術的にも安定していて、非常に美しく、キャンパスに光が溢れていました。テーマもよく解釈され、ご自分のものにされていると感じました。この作品は自宅のリビングに飾りたいと思いました。

アートパレード大賞  
(熊本市賞)

光の中で 作/松野久美子

[部門/洋画]

## 井手宣通賞

井手宣通賞の《光のハーモニー》は、構図も筆致も巧みだと思いました。夜を選んでいるところがいいですね。街灯の光が濡れた道路に反映されるリフレクションは、美しい光を表現していると思いました。立木のシルエットもシャープで、作品全体の色も美しいです。



光のハーモニー 作/野口毅

[部門/洋画]